

# 新たなページを 開く



アルバム「東京大学農学部図書館 開館記念写真 1965年初夏」  
(農学生命科学図書館事務室内資料)より

## 写

真は昭和40年に撮影された農学部図書館(当時)の内部の様子です。これは図書館が新築されて間もない頃のもので、当時図書館内では喫煙する人もいて、大きな机には灰皿が置いてありました。また、2階には個室が存在し、期末試験、公務員試験、あるいは獣医の国家試験の際に、学部学生が集中して準備するのに用いており、予約は満室状態でした。写真2階の右の方に個室へ入るドアが見られます。

3階書庫にはコンピュータが置かれ、実験データの統計処理、あるいは数理解析するのに用いられました。図書の間覧室にはMedical IndexあるいはBiological Indexが置かれ、自分の発表した論文がこれらの世界的な二次文献に引用されているか否かを大いに気にかけていたものです。最近はいんターネットとWeb of Knowledge (ISI)を用いれば世界中の雑誌における引用回数(times cited)あるいは雑誌自体のImpact Factorが明らかとなり、二次文献を読む必要はあまり無くなりました。

2階開架室の下はコピー室になって居り、書庫から論文を探し出してコピーをし、その英文を読むのが大学院生の重要な仕事でした。したがってコピー室は混雑する事が多かったように記憶しています。現在は、小生自身PubMedを用いインターネットでそのまま文献を印刷する事が多く、図書館に出かける機会はかなり減りました。しかしながら小生が編集委員をしている雑誌Microbiology & Immunologyが農学生命科学図書館に置いてあることは非常に嬉しく思っています。PubMedは米国国立医学図書館よりインターネットで全世界に配信されているものです。しかしながら、Web of Knowledgeへの配信される文献が全てPubMedに含まれるわけではなく、PubMedの文献印刷機能はWeb of Knowledgeで欠ける場合も有ります。PubMedの様な医学情報を中心としたインターネットとはまた別に、農学情報を中心とした取り組み、あるいは情報発信が今後、世界的に必要とされるでしょう。

応用動物科学専攻 応用免疫学研究室

小野寺節 教授